

大人も子どもも雪が好き

親子スキーツアー

公民館事業としては初の親子スキーツアー、天候にも恵まれ、約八十人の参加者はエコーバレースキー場で思い思いにスキーやソリを楽しみました。

今年度の竜丘公民館の目玉事業の一つに「親子の広場」があり、二月二十八日(土)の公民館活動でなく、地域の子どもが参加できる活動、そして家族で気軽に参加でき、ふれあうことのできる活動を目指したもので、文化・体育両委員会が共同で事業を行っています。春には「親子ふれあいハイキング」として上川路方面の



来年は1人で滑れるに

散策を楽しみました。この「親子の広場」の一環として、二月二十八日(土)に、エコーバレースキー場で、スキーやソリを楽しみました。公民館主催の親子スキーツアーは初めての企画なので、どの位の参加者があるか心配もありましたが、約八十人という多くの参加がありました。当日、朝七時に大型バス

二台に分乗しエコーバレースキー場へ向かい、十時に現地へ到着しました。午前中は特に天候に恵まれ、春の陽射しを浴びながら、それぞれ思い思いにスキーやソリを楽しみました。小学生は三年から学校でスキー教室があるというこ



さあ、行くよ

とで、高学年の子どもはなかなかの腕前(足前?)を披露していました。子どもに引張られて参加したものの、スキーはほとんどしたことがないというお父さんは子どもを後をこわごわと滑っていたようです。

また、小さな子どもたちは、ゲレンデ隣の「ちびっこだらけ」でソリをしました。お父さんやお母さんは汗だくで、子どもは雪まみれで楽しんでいました。

実は天気予報では天気は下り坂で心配されています。午後からはやはり曇り空になり、ちらほら雪も舞いま

したが、思ったほど崩れず幸いでした。バスで帰る途中には、一時、激しい雨に

ので、参加者の皆さんの日頃の行いの良さが証明されました。

今年度の竜丘の体育事業の最後を飾ったスキーツアーでしたが、「親子の広場」の目的に沿った、楽しい行事となりました。

おとうさんとおかあさんとおとうさんとバスにのって、はじめてスキーにいきました。リフトののってすべるときに、おとうさんにだいてもらってすべりました。

今年度の文化事業も皆様のご協力により、それぞれ充実した結果を得て終了することができました。印象深い事業の一つ、ニューイヤークンサートでは、今年新たに、大正琴、手話による歌発表、この日のために結成された二つのハンドベルグループ、そして箏合奏の参加がありました。朝から大雪で心配しましたが、新春に相応しい素晴らしいコンサートになり、大勢の参加者が感動を得ることができました。

このように多くの方が参加して良かったと思える事業ができたことが今年の成果であったと考えています。

文化・体育委員会反省

文化委員会

体育委員会

文化・体育委員会反省

文化委員会

体育委員会

文化・体育委員会反省

文化委員会

体育委員会

文化・体育委員会反省

竜丘ボランテニアの会

グループ紹介

この会の発足は昭和六十年五月で、当時竜丘婦人会長であった時又の林キク子さんが発起人となりました。これから高齢化社会を真剣に考え、市婦人会が一人暮らしのお年寄りに取ったアンケートに基づき、心細いお年寄りの少しでもお役に立ちたいと、活動が始



楽しい企画も盛りだくさん

然なかたちでの地域へのお手伝いをして、花鉢を送ったり、様々な地域に根差した活動をされています。「私

たちは無理のない、あくまでも自然体でお年寄りに接し、十年以上続いてきた、このボランテニア活動をこれからも息の長い活動にして行きたいです」と語って下さいまし

たが、無理のない、あくまでも自然体でお年寄りに接し、十年以上続いてきた、このボランテニア活動をこれからも息の長い活動にして行きたいです」と語って下さいまし

たが、無理のない、あくまでも自然体でお年寄りに接し、十年以上続いてきた、このボランテニア活動をこれからも息の長い活動にして行きたいです」と語って下さいまし

たが、無理のない、あくまでも自然体でお年寄りに接し、十年以上続いてきた、このボランテニア活動をこれからも息の長い活動にして行きたいです」と語って下さいまし

たが、無理のない、あくまでも自然体でお年寄りに接し、十年以上続いてきた、このボランテニア活動をこれからも息の長い活動にして行きたいです」と語って下さいまし

たが、無理のない、あくまでも自然体でお年寄りに接し、十年以上続いてきた、このボランテニア活動をこれからも息の長い活動にして行きたいです」と語って下さいまし

たが、無理のない、あくまでも自然体でお年寄りに接し、十年以上続いてきた、このボランテニア活動をこれからも息の長い活動にして行きたいです」と語って下さいまし

たが、無理のない、あくまでも自然体でお年寄りに接し、十年以上続いてきた、このボランテニア活動をこれからも息の長い活動にして行きたいです」と語って下さいまし

たが、無理のない、あくまでも自然体でお年寄りに接し、十年以上続いてきた、このボランテニア活動をこれからも息の長い活動にして行きたいです」と語って下さいまし

たが、無理のない、あくまでも自然体でお年寄りに接し、十年以上続いてきた、このボランテニア活動をこれからも息の長い活動にして行きたいです」と語って下さいまし

言葉から心のふれあいが

日本語・中国語学級開設に向けて

竜丘公民館では、日本み切る時期がきたとして、語・中国語学級の開設に具体的な検討に入ることになり、力を入れ動き出し

二月十六日に「帰国者を考える集い」が開かれ、住民や帰国者ら約三十人が参加しました。その日は、埼玉県所沢市の中国帰国者定着促進センターや飯田市生涯学習課の職員から、全国や飯田市の帰国者の状況の説明があり、どの様に交流を深めれば良いか話し合

心ふれあう竜丘を

「丘の語部たち」第三集発刊へ

「古きをたずねて新しきを知る」竜丘地区の昔の生活や行事などを、経験豊かな古くから竜丘に住んでいた方の寄稿が中心でしたが、今回は、戦後竜丘に引越された方や、遠くは東京在住の竜丘出身の方も含め、約百八十人の方の執筆となります。

現在の進捗状況は、構成と原稿の回収段階で、四月から編集し十一月頃の発刊を目標に進められています。発刊責任者である民俗資料保存委員長は、「ぜひ多くの方に読んでいただきたい。未来に向けて、心のふれ合う竜丘を創っていくきっかけになれば」と、発刊に向けての抱負を語ってくれました。

前市議 下平一郎さん

十二年の歴史を出版

前市議会議員の下平一郎さんが、このほど、私家版『ふれあいを心の財産として』を出版されました。下平さんは、昭和六十年から平成九年までの十二年間にわたり議員として活躍されてきましたが、引退にあたりその間の様々な思い出をつくり、交流を深めた」と話されました。それを踏まえ、両国の言葉を学び、双方の文化を理解し合う、帰国者と日本人参加者は常に対等であることを理念を打ち出しています。

これを基に、公民館の文化部のスタッフが、昨年九月より、帰国者の家庭を一軒ずつ訪ね、どのような交流が必要なのか等聞き取り調査を始めています。調査は五月には終了。六月頃には学級開設の運びにしたいということです。